



2003 ~ 2004 年度

THE ROTARY CLUB OF KOSHIGAYA-NORTH

例会日：毎週水曜日 12:30 ~ 13:30

例会場：越谷市千間台東1-1-6

クオレ千間台 2F

TEL 048 (975) 9898

FAX 048 (977) 3741

創立：1976年5月11日

会 長：小林 操

副 会 長：今野 忠雄

幹 事：太田 靖彦

会報委員長：石川 輝次



第1372回例会記録 No. 29

平成16年3月17日

司会：松崎 義一

編集：千葉 千秋

会次第

- 1、点鐘
- 2、ロータリーソング
「それでこそロータリー」
- 3、会長挨拶
- 4、御客様挨拶
- 5、幹事報告
- 6、委員会報告
- 7、外部卓話
- 8、終鐘

次回例会予告

平成16年3月31日

・会員卓話「職業上の出会い」

会長挨拶



会長 小林 操

こんにちは。北越谷の桜もそろそろ開花しそうな毎日です。皆様はいかがお過ごしでしょうか。私は、確定申告が終わり、仕事は一段落で、ちょっとだけホットしています。会計事務所の仕事は、個人の確定申告、また、3月決算法人の5月申告時期等、暮れの12月の年末調整から翌5月末までが、忙しい時期と言って良いでしょう。

3月の確定申告の直後は、中休みという時かもしれません。毎年この時期に、旅行（海外）に行っていますが、今年は、ロータリーもあり、時間が取れない状況です。

また、この時期、毎年花粉症に悩まされる時期でもあります。今年は、3月上旬まで大丈夫でしたが、この2、3日ひどくなり、昨日医者で注射をしてきました。最近、清涼飲料水で、ミント系のお茶とか、乳酸菌のドリンクとか、アレルギーに効き目があると飲み物が出ていますが、それほど効くようには思えないのが実感です。

この頃、病気の話がたくさんあります。幹事も私も、もしかして皆さんも……、先週の新聞で、「糖尿病予防にコーヒー」という記事がありました。コーヒー1日3~4杯でかかりにくくなるそうです。これは、フィンランド国立公衆衛生研究所の調査結果です。糖尿病の恐れのある方は、朗報ですね。

この後、昨日、クラブ会長経験者座談会があり、青木康國さんと、岡崎勲さんに出席していただきましたので、その様子の話を聞きたいと思いますので、よろしくお願い致します。

幹事報告



幹事 太田 靖彦

皆さんこんにちは、本日は、とくに幹事報告はございませんが、国際大会と親睦旅行のご案内をさせていただきます。5月23日(日)~25日(火)までの日程で、国際大会(大阪市内)親睦旅行(有馬グランドホテル)に宿泊致します。翌日は観光組(神戸、京都)、ゴルフ組の予定です。現在18名の参加となっておりますが、少しでも多くの参加をお願いします。

地区行事の報告



岡崎 勲 会員

昨日、クラブ会長経験者の座談会という事で開催されました。私が出席して感じたのは、クラブ協議会という考

え方で受け止めて頂ければ良いかと思えます。内容としましては、それぞれのパスト会長さんが与えられた時間が3分間で、テーマは自クラブの現状（クラブの悩み、問題点等）についての発表でした。後日、全グループが終わってからガバナーがレポートとして各クラブに提出するとのことでした。私が発表したのは、当クラブでは一つの事業を行なう時にパスト会長さんがサポーターとして非常に良い働きをしており、良い成果を上げているというような話を致しました。私も、今後出来る機会がございましたらサポーターとして協力したいと思っております。会議の後に田村ガバナーが私の所に来られて、今、クラブによって良いクラブと悪いクラブとの差が非常に出ている、そんな中で各クラブの話を聞いて参考にしたい、特に北クラブは素晴らしいクラブなので是非参考にしたいとお話ございました。これからもこの様な機会がございましたら出席して皆様にご報告したいと思っております。

3分間ロータリー情報



中村 義雄 会員

皆さんこんにちは、3分間ロータリー情報ですが、本日担当の石川輝次さんに代わりまして私がロータリーの友より記事の紹介をさせていただきます。昨年、(平成15年)9月号のロータリーレポートの中で、佐世保中央R・Cの「600回例会ホームクラブ100パーセント出席ができた!」の記事です。

今年5月8日午後8時半、全会員が注目していた「ホームクラブ100パーセント出席」が出来ました。夢に見たこの瞬間に、会場からはどよめきが沸き上がり、委員長の出席発表でどよめきが頂点に達しました。1990年9月に創立した当クラブでも、100パーセントの出席は初めての出来事でした。年間ほとんど100パーセントの出席率ですが、会長、幹事さん熱意が会員全員に通じたものと思います。良かった、良かったです。

宮崎欣人会長(当時)は「社会情勢が厳しく、退会者も多い昨今、さらに国際ロータリーでさえ定款変更をして退会防止に努めている今、それに逆行するかのよう」に600回例会、ホームクラブ100パーセント出席を企画しました。私はこういう厳しいときだからこそ、メンバー全員のお顔を拝見し、共に今を感じられる時間をつくることで、新たな発見があると期待し信じていました。全員そろった例会があんなに迫力があり、会員皆のヤッター!という喜びと、驚嘆の顔をお互いに見たとき、会員一丸となれた瞬間であっ

たと感じました。それが私の目的でもあり、企画して良かったと思った次第です」と。また、井上亮幹事（当時）は、「最後の一人が例会場に入ってきた瞬間感激しました。まさか本当に達成できるとは！創立以来 12 年、600 回記念例会を全会員でお祝いできたことを最高にうれしく思います。これも会員一人ひとりの例会に対する意識の高さではないでしょうか。会員の皆様には、ただただ感謝感謝です」とコメントしました。

ローターの友、平成 15 年 9 月号より

外部卓話



野口ステンドグラス 野口 均 様

ステンドグラスの話

ステンドグラスの語源：

着色・絵付けのされたガラス

ステンドグラスとは絵の描かれた色ガラスの断片を細長い鉛線で留めて出来たパネルを建物にはめ込んだもの、光の芸術品です。

ステンドグラスの始まりとしては、絵によってわかりやすく神の教えを人々に伝える目的で使われ始め、教会

などでより聖地らしく荘厳さと神秘的にするために、考えだされた物がステンドグラスでした。

ステンドグラスの起源は、フランスで 11 世紀に作られたキリストの頭部が、もっとも古いものとされています。

初期のころは色ガラスが窓にはめ込まれていましたが 12 世紀後半になり、一般的に知られている美しい装飾のほどこされたステンドグラスが出てきます。13 世紀になり窓はより大きくなりステンドグラスの重要性も増してきます。14 世紀に入って王侯貴族がステンドグラスに興味を持ち始めてから、著しい変化が生じてきます。15～16 世紀になると、色の関心度はより高くなり光り輝く色合いが珍重され、職人により華麗で神秘的なステンドグラスが作り出されました。さらに 15 世紀後半にはガラスに彫刻をほどこすようになりました。

日本におけるステンドグラスの歴史は浅く、宇野澤辰雄が明治 22 年に設立した宇野澤組ステンドグラス製作所がはじめとされています。

現存する作品としては、国会議事堂、横浜開港記念館、三井倶楽部などです。

ステンドグラスの製作順序

デザインを描き、原寸図（型紙と組立て）を 2 枚描き、一枚の型紙をカットします。カットした型紙に合わせガラスを正確にカットします。組立図に合わせてカットしたガラスを並べ鉛線で組立て、半田で接点を留める。

製作中の様子



出席報告

会員数	50名
出席免除	4名
出席者	35名
欠席者	15名
出席率	76.1%
前回メークアップ	0名
前々回メークアップ	3名
前々回修正出席率	91.3%

完成品の一例



11世紀に作られたキリストの頭部の写真。